

タスク12 なんのために評価するのか？

さて、今日は「評価」について考えてみましょう。日本語教育においても「評価」は学習の効果にも影響を及ぼす非常に重要なファクターです。そのため、日本語教師はかなりの時間を、評価のためのテスト作りや、その採点、フィードバックなどに時間を割いています。みなさんは学生ですから、今でも様々な評価をされることが多いでしょう。その評価は妥当でしょうか。あなたの能力を確実にあらわしていますか？また、そのテストは、学習者であるあなたにとって必要な評価でしょうか？

練習1：まずは、日本語教育の世界で公式的に行われているテストを体験してみましょう。日本人の皆さんは間違えないでくださいね。
そして、気づいたこと、感じたことをメモしておいてください。

| 試験の種類 | 気づいたこと・感じたこと・考えたこと |
|--------------|--------------------|
| 日本語能力検定試験 | ・ ・ ・ |
| ビジネス日本語能力テスト | ・ ・ ・ ・ |

日本語能力検定試験の詳細については、以下のHPを参照してください。

(財)日本国際教育支援協会 HP <http://www.jees.or.jp/jltct/>

ビジネス日本語能力テストの詳細については以下のHPを参照してください。

日本貿易振興機構 HP <http://www.jetro.go.jp/course/bjt/>

練習2：次に、教師が日常的に行うテストの目的について考えてみましょう。テストのためのテスト、上司から言われたからやるテスト、その組織で恒例になっているからやるテスト、のようなテストをしていないでしょうか？評価を行う教師は、なぜ評価が必要なのか、いつ、どのようなテストが必要なのか、その評価をどうフィードバックすることが学習者のためになるのか、教師中心の考え方になりがちな評価こそ、学習者中心で常に吟味する必要があります。

テストをする意義を、「教師にとって」「学習者にとって」の両面から考えて見ましょう。

- 1)
- 2)
- 3)
- 4)
- 5)

練習4: 聴解問題を作成してみよう!

文法や読み書きのようなペーパーテストだけでなく、コミュニケーション能力を測る試験について実際に作成する中で、考えて見ましょう。

課題：日本語能力検定試験4級レベルの聴解試験問題を作成してください。(別紙)

ワンポイントメモ

*** 日本語教育の現場における評価の種類 ***

評価には主にその目的によって以下の3つの評価があります。

A 診断的評価

学習者の日本語能力が受講しようとしているコースに適合しているかを診断するためのテスト。プレースメントテスト(クラスわけテスト)と呼ばれるものや、適性テストなどがあります。

B 形成的評価

進行中の授業において学習者の習得状況がいかなる状況にあるのかを把握するための評価。毎時間の授業後のクイズや、ある課が終わった後のテストがこれである。

C 総括的評価

コースの修了時点でコースの目標がどの程度達成されたかを確定するもの。期末試験、修了試験などがこれにあたる。

4級問題 聴解
スクリプト

氏名 _____

Q _____ ?

A:

B:

A:

B:

A:

B:

A:

B:

Q _____ ?

選択肢の絵または図

| | |
|---|---|
| 1 | 2 |
| 3 | 4 |

正しい答え _____

私の工夫: